

直観が閃く「こころの技法」

そのことを、私は、様々な体験から学びましたが、その一つが、第二話で述べたエピソードです。

いよいよスタート間近になったプロジェクトが、突如、吹き飛ぶような状況において、瞬間的な判断で、あの二人の部下に語った言葉。

「おめでどう！ 大変な正念場がやってきたな！」

この言葉は、私の心の中で「直観的」に閃いた言葉です。

しかし、この「直観」が閃く前に、

私は、心の中で、こう祈っていました。

「いま、この二人の部下に、語ってあげるべきことを、導きたまえ」

そう「全託」の思いで祈っていました。

すべてを、「大いなる何か」に託する思いで祈っていました。

実は、人生における難題に直面したとき、逆境に直面したとき、

私は、いつも、こうした「全託」の思いで祈ります。

「導きたまえ」

その「全託」の思いで祈ります。

すると、必ずと言って良いほど、ある「直観」が閃くのです。

ある「考え」が、心の奥深くから湧き上がってくるのです。

それは、いつもながら、不思議な体験です。

科学では説明できない、不思議な体験です。

なぜ、祈ると「直観」が閃くのか

しかし、ここで大切なことを申し上げましょう。

こうしたことは、実は、三四年前の「生死の体験」以前には、あまり起こりませんでした。

なぜなら、二〇代の私は、

こうした「直観」が閃くタイプの人間ではなく、むしろ「論理思考」が得意な人間だったからです。

大学院での博士論文も、「システム工学」を応用した研究論文であり、論文執筆のために、毎日、数式と格闘し、

世界の様々な現象は、すべて数学の方程式で表現できると考える「論理思考」型の人間だったのです。

決して、「直観」が閃くタイプの人間ではなかったのです。

しかし、三四年前に、

あの禅寺で「いまを生き切る」という覚悟を掴み、日々、その生き方を行ずるようになってからは、

そして、「すべては導かれている」という覚悟を定めてからは、不思議なほど、様々な場面で「直観」が閃くようになってきました。

最初は、病気との闘いにおいて、

いま、自分の生活を、どう正していくべきか、いま、心の姿勢を、どう正していくべきか、

様々な「直観」が閃くようになってきました。

そして、次には、

仕事と生活において直面する様々な問題についても、

「直観」が閃くようになってきました。

そして、いつか、気がつけば、
創造性の求められる仕事においても、
自然に「直観」が閃くようになったのです。

そのため、いつか、私自身は、
仕事や生活において何かの問題に直面し、

その答えの方向を知りたいとき、

どう処すべきかを知りたいとき、

心の中で、静かに祈ることが習慣になっていきました。

その祈りとは、

「この問題、導きたまえ」

という素朴な祈りなのですが、心を整えて、そう祈ると、
なぜか、不思議なことに、「直観」が閃くのです。

だから、あなたにも、人生の難題に直面したとき、

個別の対策を考えられる前に、心を整え、

そう祈られることを勧めます。

必ず、何かが起こります。何かが導かれます。